

第20期第5回常任理事会議事録

日時 昭和54年1月18日(木) 15.00~17.00

場所 気象庁海洋気象部会議室

出席者 岸保, 小平, 内田, 植村, 奥田, 関根, 新田,
松本, 増田, 山下

報告

- [庶務] 1. 12月26日, 日本学術会議学術情報生産・流通問題特別委員会委員長 小野周氏から, 「書誌記述に関するシンポジウム」の開催について通知がきた(12月13日, 日本学術会議大会議室)。なお, アンケートの提出についても依頼があった。
2. 12月27日, 水資源に関するシンポジウム実行委員会から水資源に関するシンポジウム(1977)刊行について学会誌に告示方依頼があった(本日の議題とする)。
3. 12月27日, 当学会関西支部から, 「気象衛星に関するシンポジウム」講演要旨集が送られてきた。
4. 1月5日, 東京工業試験所天谷和夫氏から, 光化学スモッグシンポジウムについての要請がきた(本日の議題とする)。

[会計] 12月分の会計を資料により報告。

1. 会費は順調に納入されている。
2. 支出では天気印刷費が予算を上回るようであるが, これは内容充実, 増頁等によるもので今後減頁するようなことはしない。
3. 会議費が予算より支出増になったのは, 54年度の秋季大会費の予約内金25万円の支出によるものである。

[天気] 1月号からひまわりの画像からとらえられた気象現象についての解説を取り上げてゆく。また, データ入手方法のアドバイスや, データはどうなっているかのニュース欄, 気象衛星資料利用のアンケート等も検討している。

■[教育と普及] 夏季大学の内容についてはさきの常任理事会で報告したとおりであるが, 会場が気象庁の増築の関係で従来の講堂が使用できなくなるので神田の学士会館を予定している。部屋代がかかるのでテキストを気象庁で買い上げて貰

うよう働きかけが必要である。なお, 関西支部でも実施する計画である。

議題

1. 通常会員, 賛助会員の増強策について

庶務, 会計理事で作成した会員増についての会員各位への協力依頼(案)および各理事・支部役員あての協力依頼(案)について関根会計理事から説明があり, 討議した結果, 一部修正し賛助会員勧誘の趣意書も含めて次の常任理事会で検討することになった。なお, 各支部, 役員とも賛助会員獲得に力を注いでもらうことが強調された。

2. 新しい賞について

昭和53年12月22日付書面で去る11月14日仙台での理事会で上記の件を討議したが, その後山本義一名誉会員から次の申し出があり常任理事会では承認する旨を述べ理事の意見を聴取した。(1)新しい賞に基金を出したい。その際には賞の名前を「山本賞」にしてほしい。(2)賞金の額は, 学会賞, 藤原賞と同じく「一件10万円」にしてほしい。(3)基金は藤原賞と同じ取り扱いにしてほしい。

以上の件について理事からは特に意見が出されなかった。したがって, 申し出を快く受け入れることにした。

3. 奨励金の増額について

現行では1件につき5万円を贈呈しているが, 学会賞藤原賞が10万円になっていることなどを考慮して1件7万円に増額したい。また, 選考委員 高貫 陸氏が都合により辞任されたので後任として 会田 勝氏(横浜国立大学)を選任したい。以上2件ともに承認された。

4. 光化学スモッグシンポジウムについて

東京工業試験所の天谷和夫氏から上記シンポジウムの開催にあたって, (1)共催団体になって頂けるかどうか (2)話題提供者を推薦頂けるかどうかの2点について照会があった。これに対し, 河村, 増田両理事が話し合い, 関係者の意見も聞いたうえで回答することになった。

5. その他

- 1) 水資源に関するシンポジウム(1977)刊行についての告示依頼の件。水資源に関するシンポジウム実

行委員会から、上記の刊行について予約申し込みを機関誌に告示方依頼があった。価格はB5判、651頁、12,000円で土木学会へ申し込みとなっている。本件については、共催している関係上告示することを了承。

2) 書誌記述に関するシンポジウムの開催について。
日本学会議学術情報生産流通問題特別委員会委員長 小野周氏 から通知があり、アンケートの提出についても依頼があった。これに対し、“天気”“気象集誌”担当理事が検討することになった。
承認事項 佐藤文男ほか10名の新入会員を承認。

評議員 理事 監事 懇談会記録

日時 昭和54年1月18日 17.30~19.00

場所 如水会館

出席者 評議員：有住，磯野，小林，関原，山本
常任理事：岸保，小平，内田，植村，奥田，関根，新田，松本，増田，山下，山元（理事）
監事：当舎

懇談事項

岸保理事長あいさつ 当学会運営のために平素ご配慮、ご協力を賜わり、お蔭で学会も順調に運営されている。本日は、会員増強、新しい賞、データセンターなどの話題について忌憚のないご意見を賜りたい。

1. 会員増強について 小平庶務理事から、次のとおり説明があった。(1) 気象庁を退職される方が退会される。数年後には退職者が多くなるので問題である。(2) 若い層の会員を増やすよう天氣にキャンペーンをし、現会員から周辺に呼びかけてもらう。(3) 財政的にもプラスになるよう賛助会員を増してゆきたい。支部、役員との協力を得て賛助会員をもう一度見直しその獲得に積極的に働きかけをする。(4) 従来は、賛助会員を獲得してもらっても支部への見返りがなかったが、今後は賛助会費の10%を還元することを考えている。これに対し、ふやし方、やり方について意見が交され、新聞社、航空関係、電力会社や気象測器工業会などをもう少し打診してみたらなど有益な意見をいただいた。
2. 新しい賞について 岸保理事長から、山本賞の経緯について説明があった（常任理事会議事録参照）。この山本賞は、春の総会に提案して承認されれば来

年春の総会の時から受与される。選考委員は、“天気”“気象集誌”の両編集委員から出してもらい、優れた論文を発表した新人を選ぶ。これに対し、年齢の問題、その年に優れた論文がなかった場合どうするかなどの意見が出されたが、ケースバイケースでうまく運営されるようにとの意見が出された。

3. データセンターについて 用務のため上京中の山元理事から長期計画のうちのデータセンターについて次のとおり説明がなされた。データセンターの設置については、長期計画委員会で以前から問題になっており、誰でも有効にデータを利用できる機関の出現を望んでいる。気象研究所が筑波研究学園都市へ移転した後の施設の利用、気象庁を経ないデータの入手など検討してみる必要がある。とくに気象衛星“ひまわり”のデータが使いづらい。気象協会を通して利用すると非常に高価になるので考えてほしい。また、FGGEのデータの有効な利用計画を立てることが必要である。これについて、気象庁側から資料センターについては観測部で検討していること、FGGEの中のRegional Center アジアの第2地区の資料は気象庁へ入っていること、世界資料入手については予算的に困難であること、などの説明がなされた。また、気象衛星資料の入手、データの処理の問題、データセンターのあり方などに関して種々の意見が出された。今後時間をかけて検討を要する問題であるが、基本的な構想を作る上で非常に有意義な意見と示唆が寄せられた。そして和やかなうちに懇談会を終了した。